

講演会

山田正彦

やまだ まさひこ



元農林水産大臣、弁護士

1942年4月8日長崎県五島市生まれ

早稲田大学第一法学部卒業。司法試験合格後に、五島で「牧場」を経営。その後、弁護士事務所を開業し中小企業の借金問題、サラ金問題に取り組み、暴力金融と徹底的に闘う。

1993年、4度目の挑戦で衆議院議員初当選、以後4回当選。

2009年9月農林水産副大臣、2010年6月農林水産大臣に就任。宮崎県で猛威をふるった口蹄疫では、現場の最高責任者として封鎖にあたる。

大臣退任後の2013年、弁護士法人山田正彦法律事務所を開設。2014年には、子ども発達支援やまびこ学苑を開校。「TPPを慎重に考える会」の会長を務め、「TPPを考える国民会議」の副代表としても全国的に活動を展開。著書に『アメリカも批准できないTPP協定の内容は、こうだった!』（サイゾー）、『TPP秘密交渉の正体』（竹書房）など。

スローシネマ

スローシネマ「アジアの叡智」シリーズは、危機の淵にある現代世界を、新しい時代へと導いてくれるアジアの賢人たちへのインタビューを軸に、その智慧のエッセンスを映像でとらえ、表現しようとする作品群です。欧米先進国に主導された近代化と、それに続くグローバル化は、世界中の人々を終わりのない経済成長へと駆り立て、争いや格差を、そして資源枯渇や環境破壊を引き起こしてきました。山積する深刻な問題を前に、いまだ主流社会は既成の科学技術にその解決を委ね、経済至上主義や物質主義というマインドセット（思考の枠組み）にとり憑かれたままです。

スローシネマの第一作目『今、ここにある未来』のなかで、シリーズ全体のアドバイザーでもあるサティシュ・クマールはこう言っています。

『危機の時代だと言われます。生態系の危機、地球温暖化、エネルギー危機、これら全ての〈危機〉は、しかし好機でもあります。こういった問題について話し合うよい機会であり、現在のシステムをデザインし直すための絶好の機会ともなりえます。本当の〈豊かさ〉とは何かを定義し直すのです』

この言葉通り、スローシネマはこの危機的な状況を、人々が集い、つながり、助け合い、分かち合う好機へと転じていくための、ひとつの手段となることを志しています。

(スローシネマムーブメントより <http://slowcinema.net/>)

主催
メッセージ

いま、私たちのいのちを支える食と農の分野で、深刻な危機が起きています。昨年春の国会で、主要農産物種子法（種子法）廃止法が、僅か数時間の審議で成立、今春施行（＝種子法廃止）となります。予てより懸念されている、TPP協定参加による遺伝子組み換え作物の「国内乱入」、さらには、気候変動（地球温暖化）による農産物生産へのダメージや損失も年々増えています。私たちはこの危機をともに乗り越えなければなりません。そのために現状をしっかりと把握すること、そして問題解決のために何ができるのかを考え、一刻も早く行動に移すことが求められています。この催しは、今後各地域において、清浄な土や水と健康な種子を未来に引き継ぐための啓発であるとともに、循環型農的社会的持続発展に向け、互いの垣根を取り払い、パートナーシップをしっかりと確立してゆくことをめざして開催するものです。

映画出演者プロフィール

ヴァンダナ・シヴァ Vandana Shiva

環境活動家、科学哲学博士。

有機農業や種子の保存を提唱し、森林や水、遺伝子組み換え技術などに関する環境問題、社会問題の研究と実践活動に携わる。有機農法の研究と実践、普及のための拠点として、NPO「ナヴダーニャ（9つの種）」を設立。

これまでに300を超える専門的論文を発表し、多数の本を著書・共著者として出版。それぞれ多くの言語に翻訳されている。「ライト・ライブリーフ賞」など受賞多数。

辻信一 つじしんいち

文化人類学者。環境運動家。明治学院大学国際学部教授。「100万人のキャンドルナイト」呼びかけ人代表。NGO ナマケモノ倶楽部の世話人を務める他、数々のNGOやNPOに参加しながら、「スロー」や「GNH」というコンセプトを軸に環境文化運動を進める。環境文化NGO・ナマケモノ倶楽部を母体として生まれた（有）スロー、（有）カフェスロー、スローウォーターカフェ（有）、（有）ゆっくり堂などのビジネスにも取り組む。2009年より「アジアの叡智」DVDシリーズを企画。本作はその第4作にあたる。

主な著書に『ハチドリの一としづく - いま、私にできること』（光文社）、『スロー・イズ・ビューティフル』（平凡社）、『「ゆっくり」でいいんだよ』（ちくまプリマー新書）など。

